

建築人

9

2019



大阪ホンマもん

建築人

9
2019

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	Gallery 建築作品紹介
	西宮N 設計 井上久実設計室 施工 ヒロタ建設
	吉野ちとせ保育園 設計 田中都市建築事務所 施工 南部建設
	風棲家 設計 T-Square Design Associates 施工 いなせ建設
11	記憶の建築 松隈 洋 大原美術館分館 一九六一年 街並みと手仕事を守る「城壁」
12	匠の巧 レンガが積み上げるもの 都窯業株式会社
14	理事会報告 建築相談室から 編集後記

建築士会の活動から得られるもの

研修部門長 田鍋 稔



いきなりですが、皆様は建築士会に何を期待していますか？設計に役立つ知見を求めて？スキルを活かせる仕事の機会を探して？それとも人脈づくりでしょうか？

建築士会にはさまざまな部門や委員会の活動がありますので、きつと自分に合った「場」が見つかるはずです。是非、活動に参加して得難い何かを掴んで頂きたいと思っています。毎月この「建築人」が送られて来るだけでは、とてももったいない状態です。

研修部門には、研鑽のための講習会や見学会を企画・運営する研修委員会と二級・木造委員会、技術者としての継続的な能力開発のためのCPDを運用する制度推進委員会とがあります。研修委員会はさらに、設計・設備・法令・構造・施工、の分野に細分化して、その道の専門家が検討を深めています。集まる人材は、大手や中小の設計事務所、ゼネコン、専門工務会社、行政、審査機関、など幅広く、立場を超えて対等に議論や交流ができるという「場」は、まさに得難いものになっています。職場で忙しさに追われながらも、あと少しの時間を充てて建築士会の活動に参加することで、建築士として、人として、随分と厚みが増すと思います。いかがでしょうか？興味のある方は本会事務局にご一報ください。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市中央区に国内最古の木造幼稚園舎がある。戦火を乗り越えビル群に囲まれながらも現役でここに在り続ける「大阪市立愛珠幼稚園」を取りあげたい。

幼稚園の創立は明治一三年（一八八〇年）で、創設者は当時の船場北部の連合町会である。当初、園舎は北浜小学校内に建てられ、その後に今橋へ移された。明治二二年（一八八九年）に連合町会から大阪市に移管され、市立幼稚園となった。

現在の場所に移転したのは明治三四年（一九〇一年）で、設計は主席保母であった伏見柳氏らの原案をもとに文部技師の久留正道氏の指導により、大阪府の技手であった中村松竹氏が担当した。高い塀に囲まれた園舎は、木造二階建てで、入母屋大屋根の和風とされた。圧巻は遊戯室で、二層吹き抜けの大空間とされ、高窓からは自然光が降り注ぎ、通風に有効な開口部も適切に配され、子供達にとって良好な環境とされた。

戦時中では、建物疎開の対象となり取り壊し寸前であったが、空襲のために作業が遅れ、そのまま終戦を迎え取り壊しをまぬがれた。木造園舎としては日本最古であり、円庭の廻旋滑り台と共に、平成一九年（二〇〇七年）に国の重要文化財に指定された。

平成二五年（二〇一三年）から耐震改修工事を行っていたため、昨年に襲った大阪府北部地震の際には少しの被害ですんだ。戦争を語る大人が少なくなった今こそ、戦前の素晴らしい建物を活かし、語り継いでもらいたい。

園界隈を巡ります。
祇園地区は数多くの伝統建築物があり八坂神社をスタートし高台寺の中にある茶室時雨亭・傘亭を訪れたのち悪縁を切り良縁を結ぶといわれている安井金毘羅宮を訪ねます。
その他、花見小路など秋の京都祇園の町をのんびりと散策します。
ふるってご参加ください。
日時 10月10日(木) 15:00～17:30
会場 京都 祇園界隈
定員 30名
参加費 会員1,500円 一般2,000円
懇親会 約7,000円(希望者のみ)

大阪府建築士会+JIA近畿支部大阪地域会合同企画 追手門学院大学新キャンパス完成見学会

10/11 CPD各2単位(予定)

JR総持寺駅から徒歩圏内に完成した追手門学院大学新キャンパスの見学会を行います。設計担当者の案内により、新キャンパスの計画コンセプト、設計・施工技術を学びます。
日時 10月11日(金) 13:00～17:00
見学 ①13:00～15:00 ②15:00～17:00
(申込時に①②どちらか希望時間を選択してください)
会場 追手門学院大学茨木総持寺キャンパス
講師 ㈱三菱地所設計 須部恭浩氏
定員 最大60名(各回30名まで)
参加費 会員500円 会員外1,000円
学生500円

第63回大阪建築コンクール 受賞者講演&トークセッション

10/18 CPD2単位(予定)

大阪建築コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者である本会会員を表彰するものです。第63回を迎えた今回、大阪府知事賞および渡辺節賞の受賞者による講演会を企画いたしました。
受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。また、審査委員とのトークセッションやパネル等の展示も行います。
日時 10月18日(金) 19:00～20:40
会場 大阪工業大学梅田キャンパス203
大阪市北区茶屋町1-45
参加費 無料(申込不要)

木の本質を学び森と水の恵みを考える研修ツアー

10/19、10/20 CPD8単位

吉野林業発祥の地 川上村にて木材の川上から川下までを学ぶ見学バスツアーです。380年人工美林を体験し、200年杉伐倒見学、巨大ダム内部見学、吉野杉の家見学など盛りだくさんな内容です。川上村企画サポートによる自然を堪能するツアーです。
日時 10月19日(土) 10:00
大和上市駅集合(時間厳守)

場所 奈良県川上村にて
定員 35名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員22,000円
後援団体会員24,000円
一般26,000円

世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」ツアー～堺市・羽曳野市・藤井寺市の世界文化遺産「百舌鳥古市古墳群」を巡る～

10/26 CPD3単位

堺市・羽曳野市・藤井寺市に跨る大阪府唯一の世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」を、建築やまちづくりに関わる建築士と様々な分野の方が一緒に巡り、交流を深めるとともに、地域の活性化に向けた建築からのソーシャルデザインの探求に向けて、各地域の古墳の特徴や歴史を学びます。
日時 2019年10月26日(土)
8:00もしくは9:00～17:00
(バスと徒歩で移動)
集合 下記より選択
8:00堺市役所本庁正面玄関
9:00近鉄土師ノ里駅前
行程 応神天皇陵古墳拝所、菅田八幡宮、仁徳天皇陵古墳VR体験・拝所、堺市役所展望ロビー
参加費 会員3,000円 会員外4,000円
昼食代として当日別途1,400円
皆様と一緒に食事をして頂きます
定員 50名(申込先着順)

なんばスカイオ建築技術講習会

～設計者と施工者が語る「なんば」の新たなランドマーク～

11/7 CPD3単位予定

環境整備や省エネルギー、地震時の安全向上やBCP対応、さらには複合ターミナルビルの既存機能を活かしながらの厳しい施工条件の克服など、「なんばスカイオ」の建設に盛り込まれた様々な技術を設計者と施工者に語って頂きます。
日時 11月7日(木) 13:30～17:15
会場 なんばスカイオ8階
コンベンションホール3
定員 70名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

第38回 近畿建築祭 奈良大会 MY HOME TOWN

～このまちで生きる このまちを活かす～

11/30 CPD4単位(予定)

今年度の近畿建築祭は第1部で近畿二府四県における建築士の活動を発表する「近畿あーきてと」、第2部で奈良出身の映画監督である河瀬直美氏による講演会を開催いたします。第1部、2部を通して、グローバルな感性を持って、地方の魅力や重要性を発信する活動や、地域に密着した活動など、様々な立場の方より「MY HOME TOWN」を活かす手法について学ぶ場とします。

日時 11月30日(土) 10:00～16:30
会場 奈良春日野国際フォーラム薔
参加費 3,000円(昼食、おみやげ付)

Administration

行政からのお知らせ

建築基準法に定める完了検査の確実な受検について

大阪府全体の完了検査実施率は、平成10年の建築基準法改正以降、約38%から大幅に向上し、現在では約95%まで改善されました。しかし、全ての建築物が完了検査を受けている状況ではなく、完了検査の本来の性格からすれば十分と言えない状況にあります。
平成30年4月に宅地建物取引業法が改正され、既存建物の取引時の重要事項説明において、検査済証など建物の建築及び維持保全の状況に関する書類の保存状況について書面を交付して説明しなければならないなど、ますます検査済証の重要性が高まっております。
完了検査は、建築物の安全性を確保するための最後の手続きです。
完了検査の重要性を改めて認識して頂き、工事監理者又は代理者の業務を行う際には、建築主に対して完了検査の必要性を十分に説明し、適切に完了検査の申請を行うことを求めているようにお願いします。

■完了検査の確実な受検について
大阪府ホームページをご覧ください。

■問合せ
大阪府建築行政マネジメント推進協議会事務局(大阪府住宅まちづくり部建築指導室 建築安全課)
Tel.06-6210-9727

Others

その他のお知らせ

防止、早期発見・早期避難のためのシステム、煙制御計画、建物用途と避難安全設計、構造部材と耐火性、消防活動の確保
講師(予定)
田中孝義(京大名誉教授)、秋月有紀(富山大学教授)、仁井大策(京大助教)、吉田正友(大阪工業大学特任教授)、小林陽一(安井建築設計事務所部長)、森山博(関西建築防災研究所)
日時 10/18・10/25・11/1・11/8・11/15
各13:30～16:00
会場 (一財)大阪建築防災センター4階会議室
定員 20名(申込先着順)
参加費 10,000円(5回分消費税込)
問合せ (一財)大阪建築防災センター
Tel.06-6942-0190

講習会「鋼構造許容応力度設計規準」(大阪開催)

10/25

「鋼構造許容応力度設計規準」をテキストに鋼構造の許容応力度設計法について主要内容と改定点を解説する講習会です。
主催 (一社)日本建築学会構造委員会
鋼構造運営委員会
日時 10月25日(金) 10:00～16:50
会場 大阪科学技術センター大ホール
大阪市西区靱本町1-8-4
参加費 本会会員14,000円(テキスト代含む)
定員 200名
問合せ (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538

第3回片岡安賞(日本建築協会論考コンクール)

日本建築協会100周年を機にスタートした論考コンクールも3年目を迎えました。今年度も第3回目の論考の募集をします。
主催 (一社)日本建築協会
募集テーマ 建築におけるダイバーシティとは
審査方法 全審査委員による査読の上、一次審査を行う。一次審査により選出されたものを対象とし、公開プレゼンテーションを開催する。その後最終審査を行い、受賞論考を決定する。
執筆要領 頁数は、会誌「建築と社会」掲載時4頁(12,000文字程度)。
応募締切 10月31日(消印有効、電子投稿の場合23時50分)
提出先 (一社)日本建築協会
Tel.06-6946-6981
※詳細は、日本建築協会HPをご覧ください。

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

大阪府知事指定講習 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》 9/4・12/4 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習会は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日程 ①9月4日(水) ②12月4日(水)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

大阪府知事指定講習 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》 1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのにに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日程 1月29日(水)
時間 9:30～16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

2019年度監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 9/4、11/13、1/23、2/7、3/4 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。1日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 9/4(水)、11/13(水)
1/23(木)、2/7(金)、3/4(水)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議員室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

建設工事の安全・健康確保講習会 ～大阪府工事入札(実績申告型)の評価点追加対象講習会～ 9/13、11/8、12/13、2/12 各日CPD3単位

本講習会では、設計、施工等の各段階における安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組み方法について講習を行います。

労働災害防止に関する対策を推進することにより、建築労働者の安全と健康の確保を目的としております。ぜひご受講頂いただき、安全と健康の確保にお役立てください。

日程 9/13(金)、11/8(金)、12/13(金)、
2/12(水)
時間 13:30～17:05
会場 大阪府建築士会会議員室
定員 60名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円/回
後援団体会員4,000円/回
一般5,000円/回
(4回通し受講)
建築士会員10,000円
後援団体会員14,000円
一般18,000円

令和元年度建築士定期講習 9/19、10/28、11/28、12/17、1/30、2/25、 3/26、3/31 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成28年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者

は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場・定員

9/19(木) 大阪国際交流センター 200名
※10/28(月) 大阪国際会議場 200名
11/28(木) 大阪府建築健保会館 90名
※12/17(火) 大阪府建築健保会館 90名
1/30(木) 大阪府建築健保会館 90名
※2/25(火) 大阪YMCA会館 200名
3/26(木) 大阪YMCA会館 200名
3/31(火) 大阪府建築健保会館 90名

時間 9:15～17:00(各講習日共)
受講料 12,960円(消費税含。事前振込)
申込書配布場所

大阪府建築士会及び大阪府建築士事務所協会事務局又は、建築技術教育普及センターHPからダウンロード(平成28年度受講者には、直接申込書を郵送しています。)

申込方法
上記事務局へ持参又は簡易書留による郵送
受付場所(送付場所)

※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。
注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

被災建築物の応急危険度判定(養成)講習会 10/9、12/16、2/19 CPD各3単位

本講習会は、地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。判定士の資格をお持ちでない方はぜひ本講習会を修了され、判定士登録をしていただきますようお願いいたします。

日程 10/9(水)、12/16(月)、2/19(水)
時間 受付12:30～、講習13:20～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講資格 大阪府内在住または在勤の一級建築士、二級建築士、木造建築士並びに建築基準適合判定資格者及び特定建築物調査員

※本講習会は応急危険度判定士に登録される方を対象としています。

受講料 無料
テキスト代 税込み1,500円(特別価格)
申込・問合 一般財団法人大阪建築防災センター企画耐震部
Tel.06-6942-0190

襖・表具屋さんの話 9/28 CPD2単位

地域委員会建築士の会南河内では和風住宅建築について、職人シリーズ第6弾「襖・表具屋さんの話」を開催します。世界に類を見ない間仕切り襖、環境破壊のない素材でできた、古くは伝統工芸、そのうしろに絵画なども描かれました。建具屋さんのお話を聞いて、木造住宅の新

たな発見と可能性を学びます。

日時 9月28日(土) 18:15～20:30
会場 松原ゆめニテプラザ3階多目的ホール
講師 武谷建具(堺市)副代表 武谷城二
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 会員1,500円 会員外2,000円
学生500円
懇親会 会費約5,000円程度(希望者のみ)

「大阪湾の津波・高潮対策を考える(2)」 安治川アーチ水門試運転見学会 10/1 CPD2単位

前回は西大阪地域の防災拠点「津波・高潮ステーション」を見学しましたが、今回は安治川河口のアーチ水門の試運転を見学します。そう遠くはない南海地震の時、大阪湾よりの津波はどの程度に想定されているのか?食い止める事が出来るのか?どの様に食い止めるか?を見てみませんか。大阪市の防潮対策を教えてください。

日時 10月1日(火) 受付13:15～
見学会13:30～15:30
会場 安治川アーチ水門施設
(大阪市港区弁天6丁目3-13)
定員 20名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円

木造建築とまちづくり:木でつなぐ、木をつなぐ 伝統をつなぎ、木造のまちなみを連続させていく方策 10/5 CPD4単位(予定)

「木造建築とまちづくり」をテーマに、伝統建築物や中大規模木造建築をいかに地域活性化や次世代のまちづくりに活かし継承していくかをともに考えます。日本建築士会連合会会長 三井所清典氏の著書「生業の生態系の保存 その建築思想と実践」の出版記念を兼ねた特別事業です。

共催 (一社)大阪府木材連合会 関西広域木造建築普及促進協議会
日時 10月5日(土) 13:30～17:00
会場 大阪市立阿倍野市民学習センター
参加費 会員2,000円 会員外3,000円
学生および2019年度入会会員1,000円
懇親会 5,000円程度(希望者のみ)
講演 伝統建築の保存と日本の木工技術
講師 矢ヶ崎善太郎
(大阪電気通信大学教授)
地域でつくる中大規模建築の実践と課題
(連合会 三井所会長の著書第2章タイトル)
講師 三井所清典
(日本建築士会連合会会長)
トークセッション まちの宝物を活かし次世代に繋ぐ
上記講師+モデレーター
中嶋節子(京都大学大学院教授)

京都府 祇園界隈を巡る 10/10 CPD2単位(予定)

建築士会員の皆様いかがお過ごしでしょうか?今回は、伝統保存地区の町である京都府・祇

会長動静

- 7/26 松原市都市整備部長面談
日本建築材料協会との交流会
- 7/29 近畿建築士会協議会
- 7/31 吹田市長面談
- 8/ 1 大阪狭山市副市長面談
- 8/ 5 河内長野市都市づくり部長面談
- 8/ 6 大阪府収用委員会
大阪観光協会理事長面談
- 8/16 正副会長等意見交換会
- 8/19 高石市副市長面談
忠岡町長面談
- 8/21 富田林市長面談
- 8/22 千早赤阪村長面談
河南町長面談
太子町長面談



(右)
後藤圭二
吹田市長



(右)
堀井善久
大阪狭山市
副市長



(右)
和田吉衛
忠岡町長



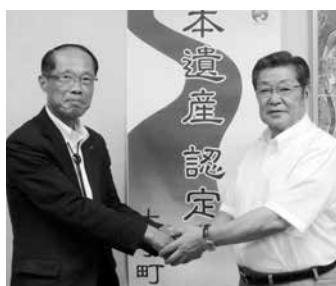
右から横関委員夫妻、吉村善美富田林市長
岡本会長、田中副会長、杉原専務理事



(右)
松本昌親
千早赤阪村長



(右)
武田勝玄
河南町長



(右)
浅野克己
太子町長

社会貢献部門

国交省空き家モデル補助事業に採択

国土交通省の「令和元年度空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」に、本会が応募者となり大阪府及び大阪の住まい活性化フォーラムと共同で「空き家等既存住宅流通市場活性化に資するインスペクション等普及啓発事業」に応募しておりましたが、7月30日付けで補助金上限額3,474千円が採択されました。

ちなみに今年度は全国から111件の事業応募があり60件が採択されました。国土交通省は中古住宅売買時における既存住宅状況調査（インスペクション）の普及を図るため、昨年4月に宅建業法を改正しましたが、日本では築年数で住宅の価値を判断する慣習などがあり普及は限定的となっています。

本事業では、宅建業者及び消費者にアンケート調査を行い、インスペクションと瑕疵保険制度の現状と課題点等を分析します。そしてその分析結果から、両制度

を普及させるための方策を検討し、消費者や宅建業者に対するセミナーなどの実施を通じ、インスペクションと瑕疵保険制度普及による既存住宅流通市場活性化と空き家の発生を抑制する取組です。事業の推進に向け、建築士をはじめ宅建士、弁護士、不動産鑑定士、瑕疵保険取扱者などの専門家から構成する専門家会議を設置し、課題整理や普及策の検討に各専門分野のノウハウを反映させます。事業成果は、来年2月に東京で開催の成果報告会で発表し、国土交通省を通じて全国に発信されます。

運営部門

令和元年の一級建築士及び木造建築士学科試験を実施

本年の一級建築士及び木造建築士学科試験が7月28日に全国一斉に実施され、大阪では大阪工業大学において、本会が試験の実施運営を担当しました。本年の受験者数は、一級建築士は全国で25,132名、その内大阪では2,034名が受験され、昨年に比べ全国751名、大阪62名減少しました。木造建築士は全国595名の内大阪では67名が受験され、昨年に比べ全国では51名の増加、大阪では11名減少しました。

また、設計製図試験は、10月13日に近畿大学において、一級建築士が「美術館の分館」、木造建築士が「専用住宅（木造2階建て）」の課題で実施します。

社会貢献部門

景観まちづくりの専門家を養成する講座を計画

本会は大阪府等から景観法に基づく景観整備機構に指定されており、その活動の一環として本会まちづくり委員会では、景観まちづくりの専門家を養成する講座の開設を計画しております。講座では、景観の有識者や行政担当者等を講師に招き、景観まちづくりの手法や制度を学ぶのに加えて、積極的に古地図アプリを活用するなど景観資源を活かしてまちのブランド力を向上させる技術を習得するプログラムとなっており、本年度内に開講する予定です。

建築士の会「堺・高石」我がまち再認識&カフェ ～泉北ニュータウンとその周辺の変化～

日時：令和元年7月28日（日）9：45～16：30 会場：榎塚台レストラン、泉北ニュータウンとその周辺 参加者：17名

桑原宏明（地域委員会「堺・高石」委員）



私たち建築士の会「堺・高石」では、「カフェ」と「我がまち再認識」の2つを柱に企画をすすめています。「カフェ」企画はメンバーの日々の仕事や活動を気軽な雰囲気で行います。「我がまち再認識」は、見落とされている地域の魅力を探す企画です。

今回は2つの企画を一度に実施した贅沢な企画となりました。「カフェ」では「堺・高石」のメンバーである北井秀夫氏と西上孔雄氏から、地元「泉北ニュータウン」での活動について伺いました。北井氏は建築士と宅建士の資格をもち、2つの視点から泉北ニュータウンの歴史と現状、課題、そして地価を含む不動産について、西上氏には「カフェ」の会場となった近隣センターや空き家の再生事例と公営住宅のリノベーション事例を、見学会と合

わせてご説明頂きました。泉北ニュータウンは半世紀が経過し、高齢化と空き家の増加が顕著に表れています。

「榎塚台レストラン」は空き店舗の並ぶ近隣センターの一角を改修し、地域の住民による高齢者の方への宅食サービスを行う施設です。空き家活用では高齢の障がい者グループホームに用途変更を行ない、すまいだけでなく働く場も提供しています。公営住宅のリノベーションでは、高齢者にサービスを提供する賃貸住宅への活用をご紹介いただきました。これらの事例は、地域住民と産・官・学が協力し持続できる仕組みづくりまで踏み込んだ先進的な取り組みといえます。

午後からは大阪府住宅供給公社の上甲氏から、2つの住戸を1つの住戸に改修した事例をご案内いただきました。市場

には少ない80㎡台賃貸住宅に改修され、緑にあふれる環境と保育園が隣接する立地性は、共働きの子育て世代に魅力的な住まいとして支持されています。

台風一過の炎天下でしたが、建築士に加え地元で建築を学ぶ学生や一般市民も参加いただき充実した一日となりました。



右：「泉北ニュータウンの不動産」講師の北井氏
左：「空き家の福祉転用」講師の西上氏

京都スタジアム建築技術講習会

日程：令和元年7月30日（火） 会場：京都スタジアム 参加者：49名

近年、地方都市中心市街地の再活性化のために、まちなかにスタジアムを建設し、スタジアムを核として街に賑わいを創出する「まちなかスタジアム」施策が注目されています。

京都スタジアムは、府北中部へのゲートウェイとして、府全体の発展の拠点として計画された「まちなかスタジアム」であり、JR 亀岡駅前北側（徒歩3分）の敷地にて建設中の京都サンガ（現在J2）のホームスタジアムとなります。サッカー・ラグビー・アメフトの競技利用、文化イベント利用の他、商業エリアや屋内クライミングウォールが併設された多目的施設となります。2020年春のJリーグ開幕に向けて、急ピッチで工事が進められています。

今回の講習では、本建物の設計担当者・施工担当者から設計・施工上の工夫について解説して頂き、京都スタジアムの全貌をわかりやすく紹介頂きました。

最初に、全体計画及び構造計画について、株式会社東畑建築事務所の上羽設計室長・山本主任技師より講演頂き、臨場感あふれる観戦環境を実現し、周辺環境への影響を最小化するための仕組みを解説頂きました。

次に、施工計画について、株式会社竹中工務店の中原所長より講演頂き、昨今の躯体労働職不足問題に対する省力化・工期短縮・安全性向上のための施工上の施策として、躯体プレキャスト化や屋根鉄骨のユニット化施工などについて解説頂きました。

田中秀人（研修委員会委員）



続いて、鉄骨建方がほぼ完了した段階での施工中の建物を見学させて頂き、講義で解説頂いた施策が具現化されている状況を確認することができました。

設計・施工両面において、活発な質疑応答もあり、参加された皆様には非常に有意義な機会になったのではないかと感じております。



京都スタジアム完成予想図



アパレルの世界は、目まぐるしいスピード感の中で、時代を先読みするセンスや予測力、分析力が求められます。その中でクライアントの服創りの姿勢は全く異なる空氣が流れていました。そこには、質の高い服を提供する為には、じっくりと時間をかけ、しっかりと自分らしさを大切にする姿勢がありました。店舗＋共同住宅の計画で、1階を店舗、2・3階を共同住宅とし、将来の可変性を考慮し、全てワンルームのスケルトンとしました。無柱の空間を実現するために、外壁、スラブは500mmの厚みとし、その厚みから生まれる奥行き深い開口部を連続させる事で、室内に静けさを与えつつ、外部の緑の風景がひっそりと室内に入り込んで来る雰囲気生まれています。このシンプルな箱型の建築は、ディテールに至るまでシンプルさを追求し、クライアントの創造性に呼応するかのごとく静かな表情を作っています。

所在地：兵庫県西宮市
用途：共同住宅
(店舗付き)
竣工：2019.06
構造規模：RC造
地上3階
敷地面積：339.02㎡
建築面積：198.93㎡
延床面積：441.7㎡
写真：富田英次



敷地は北側の国道2号線から幅員4mのアプローチが60mほどつづき南側の主たる敷地につながれた旗竿状の敷地形態である。計画にあたり、幅員4mのアプローチ部分を「露地（ロージ）」として南側園庭まで通し、その途中に建物への入り口を設けるといういわば京都によくある「辻子（ずし）」を模した形状とした。内部空間は1階は0～2歳児、2階は3～5歳児室と遊戯室を設けた。園庭にはハナモモ、ヒガンサクラ、ドウダンツツジなどを植栽し、園庭に接道する南側の道を通る近隣住民にも花や紅葉を楽しんでもらえる配慮をし、少しでも地域社会に親近感を抱いてもらえる保育所を目指した。

建 築 主：社会福祉法人
ちとせ交友会
所 在 地：大阪市福島区
用 途：保育所
竣 工：2019.03
構造規模：鉄骨造2階建
敷地面積：782.29㎡
建築面積：360.14㎡
延床面積：728.42㎡
写 真：笹の倉舎
笹倉洋平



計画地は3方が道路に面しており、自ずと周辺環境との関わり方を考えさせられる。そこで、敷地外周部を緑地帯とし、誰もが楽しめる緑地帯へと変え、街の魅力を向上させた。建築と一体的に計画することで、建築と街との密接な関係性を作っている。そして、これを可能にしているのが、緑地帯と室内を曖昧に繋ぐ中間領域である。この中間領域は2重の建具により仕切られ、それらを開け閉めすることで自然環境をコントロールし、エアコンのない生活を実現させている。

所在地：兵庫県芦屋市
用途：一戸建て住宅
竣工：2019.04
構造規模：鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
敷地面積：153.63㎡
延床面積：61.24㎡
建築面積：113.96㎡
写真：小川重雄

一九六一年に竣工した大原美術館分館は、浦辺鎮太郎が大原総一郎と共に長く計画を温めて作り上げた倉敷における記念すべき第一歩と呼べる建築だ。増築と改修が繰り返されながらも、今も竣工当時の面影を残し、独特の存在感を放ちながら大切に使われている。一九三四年の入社から戦争を挟んで二十七年間、大原の下で管轄技師を務めてきた浦辺が、翌年の一九六二年に建築家として独立する契機になった自信作でもあった。竣工後、浦辺は設計の経緯を振り返って、次のような回想を残している。

「昭和二十九年、グロピウス教授が倉敷を訪れた。その頃新溪園のこの敷地には、ユースホテルの計画があったと思う。そして翌年から美術館計画に変更された。その内容もはっきりしないまま、何回かのプロポーズ案をやった。しかしこれらの試案は、どれも大原総一郎氏の意を動かせるところまで行かなかった。けれどもそうやっている間に客観状況も好転し、はっきりしなかった内容も分ってきた。すなわち日本の洋画家達の代表的作品のための部分とエジプト・ペルシャの古美術品のための部分を作り、独立会計で運営するという方針となった。さて、設計は『これで行こう！』というアイデアが生まれたのは昭和三四年初めで、この時すでに第八回目の試案となっていた。」（浦辺鎮太郎「古い倉敷の新しい城壁」『建築文化』一九六一年六月号）

現在の浦辺設計には、こう浦辺が記したとおり、一九五七年一月から五九年にかけて描かれた合計八案になる検討案の設計図が大切に保管されている。それらを見ると、元は大原家別邸の和風庭園であった新溪園

に総一郎の父・孫三郎の銅像と記念館を建てる計画からスタートしたことがわかる。続く第二案からは、美術館の計画に発展し、試行錯誤の果てに考案されたのが、一九五九年初めに作成された第八案である。ようやく大原の理解を取り付けたのだろう。敷地は新溪園の南半分にまで拡大され、これによって敷地の南側道路の境界線をそのまま外壁とする長大な平面が生み出される。

しかし、この案は、「東西の幅が七〇mもあるこの小美術館は、ユニークではあった。後に水島工業地区をもつ」のボーダーラインにある。私としては、この線をもって保存地区を守る城壁にしたいという発想があった。そこで、古い町家の高さを考慮したスケールと白黒の色調を採用したが、幅の方は当然敷地いっぱいにとった。そして新溪園をふとこらに抱いた形としてここを休息小広場化したい考えであった。」

「今の近代的な施工法というのは、こりやもつとほつといても経済的な理由があつてだんだん進歩する、退歩することは有り得ないと思いますが、クラフトの方はこれは保存して行かなくては全滅寸前にある。全滅してしまうとクラフトがなくなつたのは人類の宝を失なうようなものなんだというようなことになりがちだと思います。」（鼎談・村野藤吾の設計態度『近代建築』一九六四年一月号）

そして、同じ年に同じ施工者である藤木工務店の職人たちの手で竣工した大阪の福祉施設・愛楽園に触れた文章でも、次のように記さずにはいられなかったのだ。

「鉄筋コンクリートによる打放し仕上げは、（中略）今後は漸次その経済的根拠を失っていくであろう。なぜかといえば型枠大工の名人芸は急速に失われつつある反面、その手間は上昇の一路をたどる。（中略）現時点で鉄筋コンクリートは日本の木造と同様に貴重な特産物であるという認識は、いよいよ実感をもって迫ってくる。（中略）一九六一年の急速な工業化の真只中に、なお日本にはかかるクラフトが存在している。」（浦辺鎮太郎「石井記念館愛楽園の建築」『新建築』一九六一年十一月号）

大原美術館分館は、戦前から民芸（民衆的工芸）運動に携わった浦辺が建築に込めた記念碑的なクラフト建築なのだと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

記憶の建築

松隈 洋

大原美術館分館 1961 年
街並みと手仕事を守る「城壁」



南側道路から見た外観



竣工当時の面影の残る玄関ホール

でも本館（大原美術館）と位置も離れており設計もあまりに変っていたから、管理者側の強い反対に出会った」という。しかし、だからこそ、続く文章で浦辺は、管理者側の「真意」が、「この設計は美術館以外のものに奉仕しているのではないか、という点に存したのかもしれない」と記しつつ、次のような設計意図を書き留めたのである。

「この別館は保存地区としての元倉敷と今後開発さるべき新倉敷（市庁舎を先頭に

立美術館）である。それは、倉敷の近代化と都市化の象徴でもあったが、浦辺は、むしろ古い街並みが残る元倉敷の保存地区を守る「城壁」のような存在として、この美術館の造形を生み出そうとしたのである。

また、浦辺には、この分館に、長く親しんできた木造の街並みと調和するような、鉄筋コンクリートによる手仕事のクラフト的な要素を盛り込みたいという意識が働いていた。そこには、高度経済成長によって急速に建築が工業化されていく時代に対す

匠の巧

都窯業株式会社



あかつき特別養護老人ホーム別館の外観

レンガが積み上げるもの

文 河合哲夫

■伊賀のアトリエ

三重県伊賀市西山。三重、京都、滋賀、奈良の四つの府県が接している。街道から山道を車で少し登る。そこに、都窯業の窯とアトリエ「伊州窯、伊州観白楼」を訪れ、創業から現在まで取り組まれている都窯業の仕事についてお話を伺う機会を頂いた。

台風が通過する日に当たってしまったが、そのルートが逸れてくれたおかげでさほど激しい風雨とはならなかった。小高い斜面に建つアトリエから、台風が残した静かな雨と霧に霞む伊賀の盆地を眺めながらの格別な取材となった。

伊州窯と名付けられた穴窯は、「焚口が原則一か所で、焚口から煙突とひとつつながりで、燃焼室と作品の焼成室の区別がない最も古い形式の窯^{*}」とのことだ。「余熱で温度が上がる登窯より焚くのは難しい^{*}」ため、「十数年試行錯誤を繰り返して、やっと数年前に「一三六〇度まで温度を上げられるようになった^{*}」という。隣接する工房とアトリエは、木とレンガで造られた素朴で静かな空気感に満たされていた。お話を伺った代表取締役河原輝雄さんの思索と充電の場として、都窯業の運営を静かに支えてきたであろうと拝察した。

都窯業は、河原さんが一九八二年に創業されて以来、レンガの製作、施工を通じて主に関西を拠点に活動する建築家達とともに、数々の名建築を生み出している。

■レンガの魅力



伊賀の盆地を望む斜面に佇む伊州観白楼

レンガの起源は、古代四大文明とともにあり、建築材料として最古の歴史を持っている。レンガは土という世界中のどこでも手に入る材料から産み出される。レンガを製作しそれを積み上げることで、壮大な建築までをも人の手のみで造り上げることができる。構造物、仕上げ材の双方で使うことができるので、その両方の役割を同時に担うこともできる素材である。レンガは床、柱、壁、屋根という建築空間のほとんどの部分を構成することが可能なため、内外空間、果ては一つの街までも単一の素材のみで形成することもできるのだ。しかしその一方で、ひとつひとつのレンガは、土と火と人の手が作り出すものなので、一つとして同じものは生産されない。さらにそれを

積み上げるのも手仕事であることから、無限の不均一を生み出すことになる。レンガが生み出す空間は、単一素材のみで構成された、語り過ぎることがなく、それでいて表情豊かで飽きさせない魅力を放つのだ。河原さんが「最も印象に残っている仕事」にあげてくれた「あかつき特別養護老人ホーム別館」（石井修／美建設計事務所）を大阪府箕面市に訪ねた。住宅街から山手に数分歩くだけで、深い山中の急勾配の道になる。そこを一〇分ほど進むと緑の隙間から赤いレンガの雁行した建物が現れた。ここでは、台湾で焼かれたレンガが外装に使われている。そのレンガは、職人がひとつひとつピアノ線で切断した、荒々しい表面で仕上がりしているのだが、全体としては、周辺の緑の中に優しく映える美しさを醸していた。完成後三三年を経た年月が、不揃い感が生む素材の魅力をますます強調し、この場所の価値を高めていた。石井修が当時、河原さんによって「たまたま事務所に届けられた^{*2}」台湾産レンガを見て、



大阪市西天満にある都窯業ショールーム

「粗面で手作りの味わいが、私のイメージと一致した^{*2}」と語っている。しかしそのレンガは、吸水率が高く冬の施工であることから、施工段階になって、採用を見送り磁器質タイルへ変更することを施工会社から強く勧められたという。しかし石井修は、日本のレンガは、「燃料は重油を使い、石炭で焼成されている工場はない^{*2}」、「合理化され工業製品に近くなった^{*2}」ことによる「均質な綺麗さに飽き足らなかつた^{*2}」という。施工者の話を慎重に聞き取りながら、その変更を受け入れはしなかつた。この場所に建つこの建築において、台湾レンガの果たす役割を見失うことなく、少ない言葉で関係者に説いたという。この建築家の判断に、河原さんは深く感銘を受け、その後の仕事に大きな影響を与えられたと語る。強度や吸水率に代表される科学的性能を理解した上で、その素材が人の感覚に与える感性的性能とでもいうべきものと合わせて、その場所の環境を正しく読み取り、自身の経験、感性を総動員することによって、建築家がそのとき下した判断。それが間違っていないかつたことは、現地を訪れて確認できた。専門的知識から出される意見に対して謙虚でありながらも、貫くべき自らの信念を大切にして、総合的な判断を誤らない。そうした仕事に対する姿勢が、都窯業の現在の仕事につながっていることは間違いない。

■都窯業が積み上げるもの

大阪市西天満にある都窯業のショールームには、今まで採用されてきたものから計画、工事中のものまで、レンガやレンガタイルが所狭しと収蔵されている。比較的よく知っているレンガやタイルも

あるが、中には私たちのイメージを変えてくれる、新しい形や面状に仕上げられたものも多くある。中でも現在東京で施工中という大判のレンガタイルが目をつけた。それは、十二種類の異なるサイズと四種類の厚みを組み合わせた乾式工法のレンガタイルで、凹凸のあるランダムな表情が、今まで見たことのない外装を予感させた。

このショールームには、日々設計者が入れ替わり訪れる。そして、河原さんや都窯業のスタッフと、それらのサンプル類を手に取りながら建築のイメージとそれを具現化するアイデアを交わし合い、それに相応しい内外装を生み出していくのである。設計者がイメージを都窯業に説明し、そこから素材を考案することばかりではない。都窯業から設計者へ提案する素材が、かたちになりきっていない空間イメージを具体化したり、さらには空間全体のアイデアを創出させることもある。むしろ後者の方を期待してこのショールームを訪れる設計者も多いのではないか。

河原さんは、このレンガが敷き詰められたショールームの大きな打ち合わせテーブルで、いつも設計者に謙虚に接してくれる。設計者が語るプロジェクトで求められているニーズや目的、そこへの想いを、静かな眼差しを浮かべながら聞き取ると、ショールームの奥からレンガのサンプルを持ち出してきてくれる。それらを手に取りながら対話をしていくと、また異なる発想が浮かんでくる。するとまた違ったイメージのサンプルを出してくれる。気付くとテーブルの上は、レンガのサンプルや参考の図書でいっぱいになる。そうして打ち合わせが進んでいくのだ。

河原さんによる設計者に対する誠実な対応。しかし、その根底にはいつも「あかつき特別養護老人ホーム別館」の現場で石井修に学んだ、ものづくりへの姿勢を持ち続けているのではないだろうか。河原さんが設計者に提案してくれているのは、レンガという外装材だけではない。設計者が空間作りにおいて持つべき高い視点そのものである。そしてその遺伝子が、仕事を通じて、都窯業のスタッフだけでなく、協業した人達に伝搬していることを、都窯業の携わった作品に通底する質が示している。設計者達は、自らの遺伝のメカニズムに組み込まれることを求めて、都窯業のショールームに足を運ぶに違いない。

^{*1} 建築と社会の「運か伊賀上野城を望む窯／河原輝雄」日本建築協会
^{*2} 新建築「あかつき養護老人ホーム／石井修」新建築社



試作サンプルと河原さん

夢のレンガを積みあげよう
都窯業株式会社

〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目8番地1号
大江ビル

TEL: 06-6367-0389 FAX: 06-6367-5567

工房: 三重県伊賀市西山 伊州窯 伊州観白樓

URL: <http://www.miyakoyogyo.com>
E-mail: info@miyakoyogyo.com

建築物耐震評価業務のご案内

本会事務局

本会では、「建築物耐震評価委員会」を設置し、申込者の行った耐震診断や改修計画の妥当性を判定する評価業務を行っており、（一財）日本建築防災協会の「全国耐震ネットワーク委員会」に登録しております。

建築物耐震評価は、ぜひ本会にお申込下さい。

【対象建築物】

建築物の所在地（全国）、公共・民間の別、規模、構造種別は問いません。

※本会会員 評価手数料一〇%割引

安価な評価手数料の設定をしており、本会会員は、一〇%割引します。

※スピーディな審査

可能な限り短期間で評価書を発行できるよう努めております。

【実績事例】

・某ホテル（〇階建 不整形 SRC三万八千㎡ 耐震診断（三次診断）・改修計画評価）

・申込から委員会評価修了まで約六〇日間

【学識委員】（敬称略）

大野義照（大阪大学名誉教授）
坂 壽二（大阪市立大学名誉教授）
阿波野昌幸（近畿大学教授）

土井 正（元大阪市立大学大学院准教授）

詳細は本会ホームページをご覧ください。

【問合せ・申込】

公益社団法人 大阪府建築士会事務局

建築相談室から 四十一

トラブル以外の現地相談

文 橋本頼幸

昨年の現地相談は地震や台風の被害が大きく、コンクリートブロックや屋根瓦の調査の依頼が多くありました。また、日常の現地相談では、施工者や設計者近隣ともめているという相談が中心ですが、それ以外の相談依頼が入ることがあります。今回はそんなトラブル以外の相談として、建物活用方法や法適合性の相談、防水に問題がないかの相談をご紹介します。

建物活用のアドバイス

大正時代からの古い長屋を所有して、店舗として貸しているが、一軒分が空き家になった。その一軒が大変老朽化している。この建物は接道されておらず取り壊すと再築できないので、どのように活用したらいいかのアドバイスをほしい、という相談です。

現地相談の結果、老朽化している一軒は床が抜け落ちそうなほどの状態であるが、柱などを補強すれば町家として再生できる可能性があると判断できる。長屋再生をして店舗として貸す方法も一つだとアドバイスしています。一方で、将来子どもに相続するにあたり、接道できるようにしたいという相談者の希望もあつたようで道路に挟まれた土地を取得することもアドバイスしています。

太陽光発電設置に際して

数年前に木造三階建ての建て売りを購入した。購入後の排水管のトラブルで漏水が発生したが、そのときに解決している。今回太陽光発電を設置するに際して、小屋裏を確認したところ、野地板に大量のカビのようなものを発見した。売主に伝えると「換気の問題」と言われたが納得できない、という相談で、現地相

談になりました。

現地相談の結果、軒裏のカビは結露や換気不足とは考えられず、おそらく屋根からの雨漏れである可能性が高いとアドバイスしています。その後、雨漏れ調査をして、屋根からの雨漏れを確認しています。

避難階段について

現在の倉庫内に作業場を作ると居室になって、避難階段が必要になるのではないかと。倉庫は二階建て延床約千㎡。現地でアドバイスを受けた、との相談でした。

倉庫内の階段は一階と二階をつなぐらせん階段が一つあるだけ。階段周りには電気設備が集まっているので、一旦火災が発生するとらせん階段が使用できなくなりそうで、危険だと思っているとのこと。現地確認の結果、床面積から二以上の直通階段は不要で、らせん階段も階段の条件を満たしている。これらのことから法的な条件は満たしているが、災害時の避難を考えるともう一つ階段の増設、非常用照明と換気設備の設置をアドバイスしています。

無線基地局撤去について防水に問題がないか賃貸住宅の屋上に携帯電話の無線基地局がおかれているが、このたび撤去することとなった。防水が心配なので問題がないか確認してほしい、との相談です。

現地確認の結果、基地局撤去についてさして問題はなさそうで、ALCへのアンカー跡を撤去した場合は止水をしっかりとすること、とアドバイスしています。

その他の相談

その他として、行政から違法状態であるから是正を求められた、外壁塗装業者から柱のさびが激しいから建物として安全性を確認してほしい、などで現地相談対応をしています。

編集後記

梅田武宏

「建築人」のリニューアルに向けて、新たな特集記事について話し合っています。

私は編集人に加わる前に「建築人（けんちくびと）」の特集に参加させていただいたことがあります。その際に個人や集団が築いてきた建築の知や技術、または芸にいたるまで、しっかりと継承すること、共有していくことの意義を感じました。広くものづくりにかかわるものとして本当に価値のあるものや記録として残すべきものを大切にしてゆきたいと思っています。

一方で社会の変化に伴う建築の新しい試みや小さくても真摯な姿勢で取り組まれている活動など、建築士の価値をより多様で開かれたものにしていくものについても積極的に取り上げたいと思います。新たな出会いや発見を私たち自身も楽しみながら、ホットな情報をお伝えできればと思います。

昨今はSNSを含め、メディアに流す情報や表現内容をめぐる問題も多くなりました。建築士会の機関紙としての自覚を持ちながら、「建築人」でしかできない魅力的な紙面づくりを行ってまいりたいと思います。

建築人 9 2019

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門	
編集	建築情報部門『建築人』編集部	
部門長	飯田英二	笠井志保
委員長	高原浩之	茂籠一之
編集人代表	北 聖志	橋本頼幸
編集人	梅田武宏	三谷勝章
	河合哲夫	若江直生
	曾我部千鶴美	母倉政美
	牧野隆義	
	武藤優哉	
事務局	山本茂樹	
印刷	中和印刷紙器株式会社	

お客様は 1,500 社以上！
年間 3,500 件以上の受注実績！
環境 & 防災をワンストップ対応！

環境

防災

I T

豊富な実績と高い技術力で設計をサポート！



省エネルギー計算

・届出、適判、ZEB、ZEH など
100 人体制でサポート。



環境計画書

・CASBEE 届出、S ランクにも対応。



設計住宅性能評価

・目標等級取得のための事前チェック、
申請業務をサポート。



避難安全検証

・安全性を確保しつつ建設コストダウン。
・自由度の高い意匠デザインを支援。
・ルート B は多数受注、ルート C (大臣認定)
にも対応。
・今後はルート B 2 (区画避難安全検証法、
煙高さ判定法ほか) にも迅速に対応。



防災計画書

・大阪府や兵庫県などで求められる防災計画評定
をサポート。

環境 & 防災の講習会を随時開催！

- ・「建築物省エネ法 適合性判定のポイント」
- ・「非住宅建物 ZEB の概要」
- ・「高層 ZEH-M の概要と実例」
- ・「避難安全検証法の概要と設計のポイント」 etc.

社内研修やオーナー様向けの出張セミナーも
無料で承ります。ぜひお気軽にご相談ください。





CROSS ROOFの家 井上久実設計室

敷地は枚方市光善寺駅から北東の高台にあり、敷地内には老朽化した母屋と離れ、これまで大切に育ててこられた沢山の樹木、そして高台の街の風景がありました。今回、御両親が離れに移るためのリフォームと、母屋の跡地に実家に戻ってくる子世帯の新居を作る計画でした。

高台からの眺望や敷地内や街の豊かな緑を、この家族だけでなく街の人々と共有すること、2世帯の距離感を再構築することをテーマとしました。

建物をリビングやダイニングが収まる南北に大きなボリュームを中心とし、その東西に寝室やユーティリティなどの小さな4つのボリュームが付加される平面構成としました。建物の分節化により外部空間が凸凹し、遠近双方の距離感で街と繋がり、また、各ボリュームの屋根の勾配の向きを互い違いとし、住宅地にふさわしいスケール感と、交差した屋根や外壁上部のガラスを通して街への視線が抜け、眺望を確保しました。

リビングダイニングからは、南側の大開口と西側のポーチ越しに、豊かな緑と眺望を楽しむ事が出来ます。離れに面した北側の個室はご両親が気軽に訪れ易い様に、子供室や和室を配置し、開口部の位置や大きさを操作し、プライバシーを守りつつ、離れを含めた敷地全体での家族の住まい方に配慮しました。

新旧の住まいの対比と調和の中で、街と人と家族の新たな関係が育まれる事を期待しています。

撮影：富田英次 第11回建築人賞受賞作品

■プロフィール

1967年 奈良県奈良市生まれ／1990年 大阪市立大学生活科学部住居学科卒業／1990-1998年 株式会社大林組建築設計部勤務／1998-1999年 ロンドン在住／2000年1月 井上久実設計室開設／2003年～ 摂南大学工学部建築学科非常勤講師
大阪府建築士会「第1回、第11回建築人賞」受賞／大阪ガス第1回住まいの環境デザインアワード特別賞受賞／第16回奈良県景観環境デザイン賞(奈良県建築士会会長賞)／住まいの環境デザインアワード2014(大阪ガス賞受賞)／奈良県景観環境デザイン賞2016(ランドスケープ部門受賞)／第21回木材活用コンクール(木材活用賞受賞)

■建物データ

設計：井上久実設計室
施工：西友建設
建築位置：大阪府枚方市
用途：一戸建て住宅
規模・構造：木造平屋
竣工：2018年4月
敷地面積：355.45㎡
(母屋と敷地を分離)
建築面積：117.59㎡
延床面積：116.76㎡

